

# はじめに

今日、豊かな時代を迎えるとともに、グローバル化、少子高齢化など、私たちを取り巻く社会は、あらゆる面で大きく変化しております。このような中、子どもの望ましい生活習慣の未定着、親や教師以外の地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流の場の減少や自然体験の不足などが大きな課題となっております。とりわけ、少子化の問題は深刻であり、学校の児童生徒数の減少傾向は、へき地に限らず、県内全域で小規模化が避けられない状況が生じつつあります。このような中で、小学校においては複式学級を有する学校が増えております。

複式学級を有する学校に共通する特性として、小規模性・少人数性があげられますが、この特性を単にマイナス面にとらえるのではなく、各学校や地域の実態に即し、いかに生かしていくかが、指導の充実のための鍵となっております。

県教育委員会といたしましては、過疎地域における親密な人間関係による連帯感や豊かな自然などを「過疎力」としてとらえながら、学校と家庭、地域社会が一体となって、以下の三つのような取組を進めているところであります。

一つは、濃密な人間関係や優れた地域素材を生かした体験活動の充実を図っております。

二つは、交流学习や集合学習及び合同学習、教育機器を活用した授業等を充実させたり、複式学級の指導方法の工夫改善に努めたりして、少人数を生かした指導の充実を図っております。

三つは、へき地教育研究団体との連携や複式指導初担当者研修講座の実施、各種研究大会への支援など、教師の指導力向上に努めております。

今回、学習指導要領の改訂を受け、複式学級を有する学校における指導の効果をより一層高めるため、本指導資料の改訂を行いました。編集に当たりましては、複式学級を有する学校の在り方について、平成23年度から完全実施される学習指導要領に基づく教育課程の編成や指導方法の工夫・改善などを、本県の学校の実態を踏まえ、具体的な例をできるだけ盛り込んで示しております。また、資料後半部分には、「複式指導に関するQ&A」を新設したり、「複式指導に関する用語の解説」には該当ページがすぐに参照できるよう逆引き索引機能を盛り込んだりして、先生方にとって活用しやすいものとなるよう配慮しました。個に応じた指導を充実させる観点からも、複式学級を有しないその他の学校の指導におきましても、大いに参考となるものだと考えております。

本資料を改訂するにあたり、改訂委員として御協力いただきました先生方に厚くお礼を申し上げますとともに、複式学級を有する学校の教育がこれまで以上に充実していくためにも、本資料のより積極的な御活用をお願いしたいと考えております。

平成23年3月

宮崎県教育委員会学校政策課  
課長 児玉淳郎